

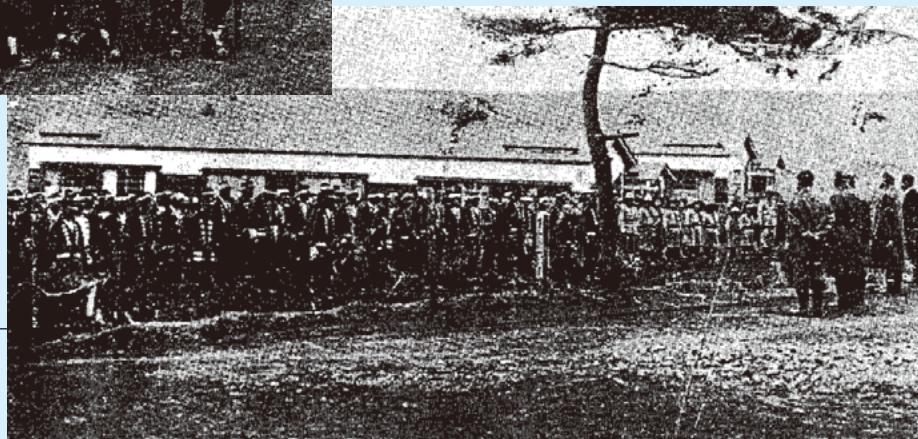


2016 秋号 Vol.28



三井報恩會米山理事長外二名  
御慰問記念撮影  
前列中央米山梅吉氏

三井報恩會米山理事長  
療友一同に對し慰問の辭を賜る



三井報恩會米山理事長をお迎えして

中條資俊

緑樹影静かなる五月八日、三井報恩會米山梅吉理事長には小林平左衛門、横田忠郎両氏を帶同して、重要な御使命を帯びせられ遙々御来青に当り、東北僻遠の地たる本院を御揃いにて慰問せられたのであります。真に本院の光榮とする処であります。御一行は院長室に少憩、御旅行の御疲労を厭はせられず復旧状況などを聴取せられ、それより院長並びに主事の案内にて患者堵列奉迎裡に復興の実地、松丘公園、御歌碑、農園、御下賜楓公園等視察せられたのであります。患者一同に對しては、いとも御懇切なる御慰問の辭を賜ったのであります。その概要は

「私は只今御紹介に預かりました米山であります。私は長らくいろいろの社会事業に携わっておりますが、らいの事につきましては直接関係は致して居りませぬが、陰ながら同情致して居るのであります。今回宮城県下に出来ますらしい療養所の敷地を見たり、又、いろいろの社会事業を見たいと思いまして参ったのであります。私はらい療養所を拝見致しますのは、今度が初めてで、また、皆さんの生活振りを見ますのも初めてであります。皆さんは不幸、病にかられこの病院に収容され、それぞれ専門家の治療をうけられるることは幸福だと思います。私は常に思いまするに人は神を信じ、運命に生き、楽しくこの世を送って頂きたいと存じます。ではご機嫌よう。」そして患者総代二田総務より謝辞を申し上げたが、一同はかねがね三井報恩會よりは数々の御恵みを辱けのうし、社会人道上注がせらる御精神の程を偲び奉り、ひたすら感涙に咽んだのであります。

昭和13年5月8日、三井報恩會理事長米山梅吉は、青森のハンセン病療養所松丘保養園を訪問した。昭和11年10月に発生した火災により甚大な被害を被った保養所は、報恩會の寄附により土地を購入し畑を作つて自給自足の生活をしていた。報恩會一行訪問の目的は、この様子を視察することであった。このときの模様が、当時の園長中條資俊氏により松丘保養園の機關誌「甲田の裾」に掲載されている。

## 春季例祭 2016年4月23日

### 「時を貫く記録を守る」

—世界に誇る公文書館の実現に向けて—

独立行政法人国立公文書館館長 加藤 丈夫氏



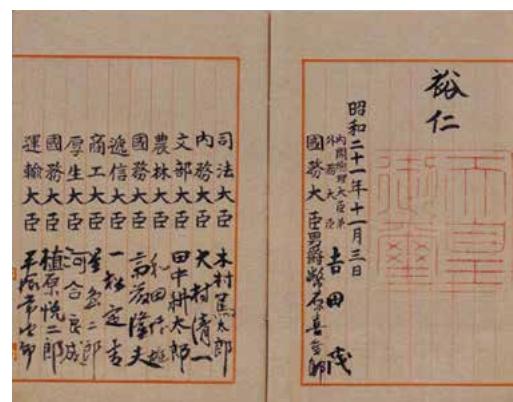
最近、憲法改正の動きが活発になり、公文書のあり方が少しずつマスコミなどで取り上げられるようになりましたが、多くの方が公文書館にはどういった資料があり、どんな役割を果たしているのかご存知ない。その紹介とこれからの国の公文書のあり方をお話します。

1971年に出来た国立公文書館は、国の歴史的重要文書を保存管理し、広く国民が利用できるようになる国の機関、今は独立行政法人となっています。北の丸公園の南側に本館、筑波に分館がございます。歴史的に重要な資料を保存管理し、広く国民に利用していただく。利用するということがキーワードです。

今国立公文書館が所蔵している文書は、約140万冊。大きく分けて二つ、90万冊は明治の初期から現代まで国の重要な意志決定に関わる憲法、法律、勅令などの公布憲法いわゆる公文書です。一番重要な書類は、現在の日本国憲法と昭和20年8月15日太平洋戦争終結時に天皇陛下が玉音放送

で終戦の詔書を読み上げられましたが、その詔書の原本です。

もう一つのジャンルは、江戸時代以前の証文、公家などが所蔵していた古書古文書が約50万件。の中には国の重要文化財が29点。代表的なものは、鎌倉時代の歴史を綴った吾妻鏡の原本があります。これは徳川家康が直に読んだという記録があります。



日本国憲法

この他に、個人からの寄贈寄託文書があります。佐藤栄作氏の日記は、総理在任中も含め40冊全部お預かりしています。佐藤氏は夜の町へ遊びに行かず、毎晩日記を書いていた珍しい方です。沖縄返還を担当し、ニクソン、キッシンジャーとの交渉記録、返還式典の感想がかなり生々しい肉筆で書かれています。佐藤氏はその後ノーベル平和賞を受賞されました。勲章や訓辞もお預かりしています。竹下内閣時の官房長官小渕氏の「平成」という元号の表示、この「平成」も当館で所蔵しています。これは竹下登家にしまっており、総理が亡くなった時にいただいたものです。

公文書館のユニークな機能としてアジアセンターがあります。村山富市氏が総理になった時に、村山談話を出された。戦争中に日本はアジア諸国に迷惑をかけたと言う反省を含め、明治の初めから太平洋戦争終結時までの日本とアジアに関わる記録を取りまとめ、内外に発信したいといわれた。それでできあがったのがアジア歴史センターです。デジタル化した資料が現在までに約3000万画像があります。昨年、戦後70年で安倍首相の談話が出されました。安倍談話議論をした時に、委員から「アジア歴史資料センターの役割はすごく大事である。これを充実して世界に日本の立場を発信すべき」という意見がありました。

公文書館で扱っている文書を、国民に活用していただくという大きな目的の活動の一つとして、様々な展示会を開催しています。常設展示として、日本国憲法、明治憲法、終戦の詔書等、原本と同じレプリカを見ることができます。館長に就任して3年になりますが、この重要公文書の展示に力をいれています。春と秋には特別展を開催しています。

去年の秋は「災害に学ぶ」という展示を、現在は、「徳川家康展」をやって居ります。家康は読書家で、將軍になったとき紅葉山文庫という図書館をつくりました。色々な本を集め、出版事業をやった。家康は信長秀吉に比べしっかりした政治家で、暇があれば図書館に入って歴史書を読みふけて参考にしました。徳川幕府の図書館が15代続いて幕府が倒れたとき明治政府に引き継がれ、明治政府もしっかり管理し、公文書館がスタートした時にそのまま移ってきました。

昨年ユニークな取り組みとして、キャロラインさんが駐日大使になったので、アメリカボストンのケネディ大統領の図書館博物館にある資料を借りて、ケネディの特別展を開催しました。アメリカは、大統領一人一人に記念の図書館ができています。今オバマのものをどこに造るか検討しているそうです。この展示は大変な人気で、2ヶ月で42000人を越える来客

がありました。ケネディはアメリカでも日本でも特別人気です。1962年11月ケネディがダラスで暗殺された場面のコーナーもあり、写真など飾りました。そこは人だからがきていて、見学者が「あの日私はテレビみてたよ」「旅行に行っていたよ」と話していました。あの日は日本国民にとっても大変印象深い日だったと思います。大成功でした。展示物に椰子の実がありました。ケネディは、若い時第二次大戦に参戦をして南方に出撃した。その時日本の駆逐艦がケネディの乗った魚雷艇に衝突し、ケネディ艦長は南の島に流れ着いた。そこで椰子の実に「今自分はこうなった。助けてくれ」と住民に渡した。アメリカの基地にこれが届いて助かった。こうして一躍ケネディが第二次大戦のヒーローになった。椰子の実のお陰で大統領になるきっかけになった。椰子の実がケネディの元に返ってきて、大統領時代机の上にこれを置いていたそうです。この一級のお宝を特別に借りて展示しました。これには後日談があり、ケネディが大統領に就任する時、ケネディの艇を沈めた天霧の艦長さんが生きていた。そしてケネディを祝福し、昨日の敵は今日の友、というのが日米友好のシンボルになった、という事です。さらに、この展覧会を開催するにあたり、キャロラインさんを開会式にご招待したら「喜んで伺います。ただし、ひとつお願いがあります。父を沈めた天霧の艦長の奥様が今92歳で福島在住でご存命である。開会式にぜひ奥様を呼んでください。私から渡したいものがあります」という事で、奥様をお招きしました。キャロラインさんは「あなたの主人から父に送られた手紙のコピーを持ってきました」と手紙のコピーをお渡しました。



ケネディ大統領特別展開会式の様子

資料を国民に利用していただくというその役割を考えしていくと、二つあります。一つは公文書館として人々の生き方や暮らしに影響を及ぼす社会の決まり、法律勅令政令などの内容と成立した過程を後の世代に知らせること、国や自治体の行うガバナンスを国民が顕彰することなのです。国では毎日膨大な資料ができて、重要資料は永久保存、必ず公文書館にきます。これを次の世代の人が必ず見ることができる。あの時どんな生活をしていたか、どんな議論があったのか、ということをしっかり顕彰できる。それがルールを作っている人たちにもきちんとわかっていれば、自分の仕事が後の人たちにみられる、今仕事をしているということを理解する。このように民主主義は回っていく。それを担うのが公文書館の一番大事な役割です。

もうひとつは歴史の史料館として、先人の残した資料から日本の伝統や文化を理解して日本人としての誇りや自信をもつ、民族としてのアイデンティティを確認すること。そのことが大事な役割です。これが公文書館のもう一つの重要な役割と思っています。

世界各国の公文書館はこの2つの機能をもっていますが、日本の公文書館は諸外国に比べて所蔵文書量、担当する職員数も一桁も二桁も少ない。立ち後れた現状です。日本で公文書館ができるのが1971年です。フランスは、フランス革命の次の年から公文書館が活動を始めています。職員数は、日本の定員は51人。最近は中国韓国が力をいれている。江沢民時代に国民の愛国教育の拠点にする、と宣言し、歴史的資料を集めて利用することにかなり力を入れました。歴史は毛沢東からはじまり、どこへいっても壁面に反日抗日の資料がうんざりするくらい飾つてある。今、国境問題では尖閣諸島、竹島問題、北方領土があります。領土交渉は、長い歴史があり未解決のままで。日本は解決済みと思っているが、各国ではまだ未解決。外交交渉は資料のつけあわせから始まる。公文書館にもロシアとの交渉の中でカザ

フスタンは渡すが北方4島は日本のもの、という外交文書があるのです。公式な文書が残っている。ところが、外交交渉が記録のつけあわせからはじまるとすれば、ここにあるものは極めてお粗末です。福田元総理は総理公文書館の活動に熱心に取り組んだ方です。福田さんは「日本は手ぶらで外交交渉するようなものだよ。もっとしっかりしたものにしなければならない」と盛んに仰有った。公文書がどれだけ保存され、管理されているか。国益にも直接関わる、このことが今も大きい問題です。もう一つ例をあげますと、第二次大戦の最中から戦後の記録の研究者たちは、日米関係の歴史を顕彰する時に日本の公文書館ではなく合衆国の公文書館に行く。その方が資料がたくさんあり、研究に便利。そんな実態です。

なぜ国の中重要な機能を担っているのに立後れているのか、理由は2つあります。明治の初めに岩倉具視使節団が世界を廻って新しいものを取り入れよう調査をした。岩倉は各都市に美術館、博物館を見て日本すぐ取り入れなければいけない、となつた。このときに公文書館は見なかつた、忘れてしまつたという説がひとつあります。また、戦後の混乱で公文書館を取り入れなかつたこともあります。昭和20年8月15日、占領軍がやって来て何をするかわからない、と霞ヶ関永田町近辺の役所で大量の文書が焼却されました。皇居の上の空がまっ黒になったというくらいです。焼き切れなかつたものは政治家や官僚が家に持ち帰り、彼らが亡くなつてそのまま廃棄された。中には家族が公文書館に預けるという人もいますが、処分された。明治初めから続いていた文書管理体制がすっかり途切れてしまった。その後遺症が今も続いている。これがひとつ。戦争に負けた割にはドイツの公文書館にはしっかりとしたものが残つてゐる。なぜか。日本は初めて負けたが、ドイツは負け慣れているから文書を取つておこうという機運があつたらしい。もうひとつは、役所の文書管理で重要文書の廃棄の問題。私は民間会社にいて役所にお願い

や相談に行きました。その時局長さんにたどりつくまでに書類の山をかきわけてやっと窓際にたどり着くということを随分経験しました。今は少し綺麗になりましたが、大体役所は書類の山の中で仕事をしている。管理の基準がなかつたら重要な文書の紛失はかなりおこります。最近では、年金記録の紛失があります。国の年金記録も重要文書ですが、扱いが杜撰でわからなくなつた。こういう現状では海外に太刀打ちできない、ということで危機感を持ったのが福田元

総理だった。このきっかけは、総理になる前にワシントンで高官と話をしていて、「私は高崎なんだけれど高崎は空襲で全滅し戦時の記録が何も残っていない」と話すと、30分くらいのうちに高崎市の市街の空襲の写真が出てきた。高崎市の記録がアメリカの公文書館に記録されていた。彼は衝撃を受けた。日本は何とかしなければならない。これがきっかけになつた。私も最近同じような経験をしました。今年1月ワシントンに行き、アメリカの国会図書館にあたるところに行きました。私の家は戦後まもなく小さな出版社をやっていて『漫画少年』という雑誌を出版していました。1948年に我が家で発行した『漫画少年』がきれいな状態で保存していました。ビックリして「なぜここにおいてあるのですか」と尋ねたら「これは我々の所蔵資料です。あなたのことは全部調べてある」と言われました。この時アメリカと喧嘩をしてはいけないな、と思いました。福田さんが総理になったときに初めて公文書担当大臣を設け、公文書のあり方に対する有識者会議をスタートさせました。今日のタイトル「時を貫く記録を守る」これは当時の上川担当大臣がモットーとしていた言葉です。私はあちこちで話ををするときに使わせてもらっています。2011年に公文書管理法という法律ができ、役所でつくる文書の保存管理公開のルールができました。



国立公文書館本館

皆さんのご自宅のPCで公文書館をヒットすると、かなり細かい資料でも自宅で見られる。今進めているのは、関東大震災後の甘粕事件や五一五事件、二二六事件など国を左右したような大きな事件の記録です。内容を点検し、早く皆さんにご覧いただたい。たぶん見たことのない記録がでてくるはずです。

これからですが、各官庁でも実際のルールをしっかり認識しているとはいえない。文書管理の基本事項を徹底しよう、これが第一。東日本大震災の時、福島の原発について閣議で大議論になつた。作つてあるが出さないのか、もともと作っていないのか。この辺のことはしっかり顕彰する必要がある。正に公文書管理法に則ってどうするのかです。二つめの問題は新しい公文書館を造ろうということです。今の計算であと5年くらいで、満杯になる。それから展示の施設がお粗末です。原本を見て戴くにはケースの温度湿度の管理、セキュリティが大事です。日本の公文書館にはそういうものが整備されていない。展示施設の整備は大事です。三つ目は、記録をデジタル化するということです。今まで文書をマイクロフィルムにとって保存してきましたが、あらためてフィルムを焼き直してデジタル化しています。もう一つは、全国で公文書館といわれているのは88あります。都道府県全部にあるわけではなく47都道府県のうちまだ10県は

公文書館がない。それぞれの地域の資料をデジタル化してネットで繋げることです。さらに、未だ全国の古い家の天井裏や倉庫に貴重な資料が残っている。これをどうやって探して持ち出して保存するか。そのためにも「公文書館はこういう仕事をしています、みなさんのお蔵に何かありませんか」と言う注意をひいていただく。これは大事なことです。

先日、オーストラリアの公文書館の方から、「オーストラリアで日本企業が戦前活動していた記録がたくさん残っている。戦後70年を記念してオーストラリア政府が預かっていた資料を日本に返したい」と手紙がきました。昭和16年12月、戦争が始まった瞬間にオーストラリアで日本の企業活動がストップした。そこで使っていた資料には横浜商用銀行、三井物産などの取引台帳や、その時机の上にあったメモや手帳、日本から送られてきたレコードなどがそのまま撤収された。それらが70年間ボールに綺麗に保存してあった。これにも裏話がありまして、戦争が始まつてオーストラリア人が日本の捕虜になり、船で輸送された。そのときアメリカの潜水艦が間違って撃って沈

めてしまい千人以上犠牲者がでた。その時の乗員の台帳を日本がもっていた。それを二年ほど前にオーストラリアに渡した。の中には今まで身元がわからなかった人が何人も確認された。大臣をやった人もいた。オーストラリア側はこれだけのものを残しておいてくれて、と感謝しその返しをしたいのです、ということでした。そういうわれると余計断れなくなつた。まだ日本人が知らない記録が残っている。これから日本を考えるときに、改めてひとつひとつの場面で日本がどんなことをしてきたのか、ということを考えていく必要があります。

最後に文書管理の専門家は20人しかいません。日本中でどうやって育てるか。専門家が育たなかつたら日本の公文書は駄目になってしまふ。人の育成に取りかかっています。図書館には司書が、博物館美術館には学芸員がいます。文書管理の専門家はアーキビストと呼ばれ、日本語訳がないのです。そんなレベルです。早く建物をたて人を増やすことが課題です。



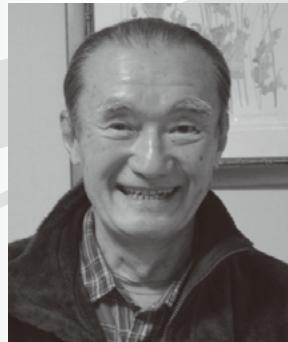
### [アトラクション]

みずぐち　ちはる  
水口 千令さん(紙切り作家)

静岡県芸術文化講師として、教育現場での創造力を育てるはさみの授業や教育講演を行っている方です。

春季例祭では、はさみ1本、紙1枚、下書きせずに心の原風景や追憶をテーマに絵を切り抜き、見ている方々と交流しながら見事な切り絵を完成させてくれました。

# 思い出



米山 治

李香蘭も同じ時期に住んでいた  
鎌倉・扇ヶ谷。  
やんちゃな思い出ばかりです。

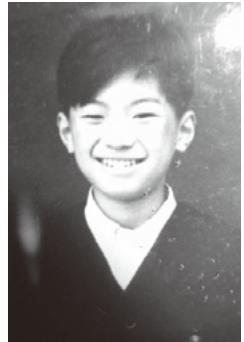
私米山治は、米山梅吉の三男・桂三の次男として、昭和14年(1939年)12月東京青山の産院で出生しました。偶然にも同年4月16日、同じ産院で水谷八重子(二代目)が出生しています。名付親は明治天皇を尊敬していた祖父梅吉で、昭和13年(1938年)生まれの賢兄に「明」、愚弟の私に「治」と名付けました。少年時代の私は冒険好きなやんちゃ坊主で、賢兄の明といたずらをして、よく父桂三に叱られたものです。

昭和19年(1944年)、東京から鎌倉の扇ヶ谷(おおぎがやつ)に疎開しました。疎開先の家は、雨漏りがひどく、父の服を改造した継だらけの服を着ていました。下駄ばきで近くの野原や山を走り回ってトンボ、セミ、蝶、イナゴ、バッタ等を捕まえたり、蛇を捕まえて、尻尾をもって振り回して遊びました。近くの小川では、主のような巨大ウナギを苦心惨憺して捕まえ

たりしました。古い記録によれば、扇ヶ谷には鎌倉幕府の要人が多く住んでいたということで、神社仏閣が多い土地です。最近の報道では、鎌倉市内でも一二を争う地価が高い所になっているようです。今この辺りに住む子供達は、川に入ってウナギを捕まえることもないでしょう。

私たちは、幼いながらも梅吉の言葉「清貧屋漏に恥じず」を肝に銘じ、たとえ家が雨漏りしても、継ぎはぎだらけの服を着ていても恥じることはない、と思っていました。後にこの言葉は「人に見られない場所にいても自分の行いを謹んで恥ずべきことをしないこと」という意味であり、自分の解釈とは違うことが分かったのですが、当時の私たちは慎ましく生活していました。

昭和21年に、鎌倉市立御成小学校に入学しました。ここはかつて鎌倉御用邸があった場所で、「御成」の校名もこれに由来しています。この学校に4年生迄在学しました。同じクラスには、別世界の人の様な洗練された川喜多和子さんがいました。和子さんは、国際的映画人として活躍した川喜多長政氏のお嬢さんです。長政氏は1928年に日本で東和商事(現東宝東和)を設立。世界中で映画を買い付け、また日本映画の輸出も手掛けます。1939年、上海に中華電影公司が設立されると、副董事長に就任します。李香蘭は1937年に出来た満州映画協会の看板女優でした。ただ、日本人である李香蘭が中国人として人気者となったことにより、日本と中国の関係が次第に悪化していく中で彼女の立場は苦しいものになり、李香蘭は満映を退社し中華電影に移籍します。やがて長政氏は李香蘭の後見人となり、終戦後に、漢奸の疑惑で中国に留め置かれた李香蘭に、長政氏は最後まで付き添って、1946年一緒に帰国しています。



帰国後李香蘭は、鎌倉の川喜多家に身を寄せています。和子さんは、「自分の家に李香蘭が居る」と言っていました。当時はあまりピンとこない話でしたが、今思えば和子さんは、あの映画スター李香蘭と一緒に生活していたのですね。余談ですが、現在、鎌倉の川喜多家邸宅跡は改修されて、鎌倉市川喜多映画記念館になっています。鎌倉では、川喜多和子さんのような不思議な人が居たり、大自然を友にして野性的な生活を楽しみました。

### 参列者の長い列が歩いていく 梅吉葬儀の記憶 東京に戻り青山学院初等部に

時が流れ昭和21年(1946年)、三島で行われた梅吉の葬儀に父と出席しました。残念ながら、覚えている情景は、屈強な男性に担がれた梅吉の棺を先頭に、葬儀に出席した方々の長い列が焼き場に向かって、畑の中を何時までも歩いて行く場面だけです。

昭和25年疎開先の鎌倉から東京に戻り、青山学院初等部の5年梅組に編入させて貰いました。昭和25年4月から2年間通いました。2年間とも、優しさと厳しさのバランスの良く取れた女性の松江栄先生が担任でした。青山学院初等部では生まれて初めて制服を着ることが出来、嬉しくなって写真を撮ってもらいました。鎌倉から戻った所は、梅吉の本邸の焼け跡に新

築した木造平屋で、焼け残ったお蔵があったのを記憶しています。この家は、父の勤め先(三田の慶應義塾大学)にも近く、兄の明が入学した中学校(慶應義塾普通部)に通うのも便利で、私が通う青山学院初等部には歩いて10分の近さでした。

この家の近くには、青山墓地や根津美術館、明治神宮、家の目と鼻の先には青南小学校等があり、遊び場には恵まれていました。青山学院初等部では、鎌倉の川喜多和子さんのように洗練された女子生徒が何人も居ました。同じクラスの女子生徒の一人は皇后陛下のご実家に嫁いだ方もいます。男子生徒も女子生徒も鎌倉から編入してきた私を、親切に受け入れてくれました。多分米山梅吉の孫だった事も幸いしたのではないかと思います。写真のA君は、桜組と梅組の両方の番長で、ことあるごとに私を庇ってくれました。



左よりA君、遊佐先生、著者

### イエスキリストの愛を 心身に深く染み込ませ 一つにまとまっていた米山家。

当時の私の作文が手元にあります。「ぼくのくうそう」、「田舎」を見ると、我ながら一生懸命背伸びをしているようで、可哀想になります。「ぼくのくうそう」は笑ってしまう内容で、「田舎」の方は、父と三島に行った時の事を描いていま

## 田舎

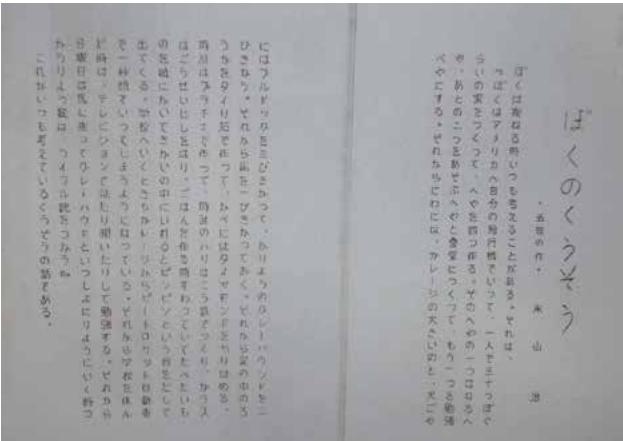
朝からさわやかな朝日が窓からさしこんでいた。庭ではスズメが元気よくさえずっていた。僕は食事がおわって田舎へ行くたくをした。田舎には、きっ茶店や洋食屋などもあるかなあ、と考えながら家を出た。

僕達は新橋から東海道本線で約三時間のあいだやられながら汽車の窓に写る景色を見た。時には煙が続き、時には海が続く。どんどん窓をすぎる景色を見ていると、急に人が乗りこんできた。そして僕のとなりにどこか田舎の百姓風の人達がすわった。そしてべちゃくちゃなにかを話していたが、次の駅でおりてしまった。その時僕に「あんがと」と云つておいでいった。

さてようやく三島についた。駅を出ると駅前にはきっ茶店も洋食屋もあった。そしてタクシーが五、六台ならんでいる。そして自動車がひつきりなしにはしつてある。東京のざつとうからぬけだしたと思ったが、それどころではない。だがすこし村の方へ行くと、今度は牛と馬しか見られないと云つた変り方である。そして所々に材木屋があつて、ジェーン・ジェーンと木を切る音が心よくきこえた。

年5月25日の東京大空襲で、祖父の本邸も高樹町の我が家も全焼してしまいました。幸いなことに、祖父も私達家族も早めに疎開して命拾いしました。

結局私は疎開で命拾いして、青山学院初等部への編入で、初めて祖母春や叔母の愛子、澄子一家と親しく近所付き合い出来た事になります。祖父梅吉の記憶はあまり定かではありませんが、戦争を前後して米山家は一つにまとまっていたと思います。



す、今読み返すと、三島には少し失礼な内容だったかな、と思います。

青山学院初等部での2年間、毎日のように丁寧にしっかりと、イエスキリストの愛を教えてくれました。お陰様で鎌倉の野生児がイエスキリストの愛を心身に深く沁み込ませた、人に親切な心優しい子供になっていました。

しかし、中学で柔道、高校、大学でラグビーに打ち込む内に、鎌倉時代の野性が目を覚まし、好戦的で荒々しい人間になりました。

今、青山学院初等部を卒業してからの60年以上を振り返ると、青山学院初等部で2年間毎日しっかりと丁寧に教えて貰ったイエスキリストの愛が、私の心身の一番深い所に残っていたことに気付きました。

特に情操教育については、小学校で丁寧にしっかりと毎日教育することが、如何に有効かが分かりました。青山学院初等部への通学路の真ん中位に、高木家に嫁いでいた梅吉の長女・愛子が、未亡人となった春を引き取って世話をしており、その隣には荒川家に嫁いでいた、梅吉の次女・澄子一家が住んでいました。春を中心に、長女、次女、三男とその家族全員が直ぐ近くに集まっていました。祖母春は、昭和30年(1955年)に高木家で、関係家族全員に看取られて安らかに亡くなりました。昭和20

# ピーマンの つぶやき

滝田 十和男

## 米山梅吉翁と松丘保養園

去月末、菊池盈君の『あの遠い日から』の出版を祝う会の席上で、ご出席くださられた樋口喜四郎先生との短い会話の中で、先生は「松丘保養園とゆかりのある、日本のロータリークラブと三井報恩会を興された、米山梅吉という人の事蹟について、もっと知りたいので、調べて欲しいのだが。」と、おっしゃった。

それから程なくして、先生から私の手許に『米山梅吉翁と青森県』という小冊子が送られてきた。早速それを読んでいるうち、私が入園していた昭和12年の秋、園の東端に隣接して、見わたす限りと云ったら、少しばかり誇張に過ぎるけれども、その一帯は付近の農家である猪股さんが所有するリンゴ畑で、(所有者のことは、ずう一つ後になってから知ったのであるが…。)折りから収穫期を迎えた紅玉りんごが、空の色までも真っ赤に染めずにはおかないと、枝もたわわに実って、それはそれは見事な果樹園であったのが、翌年春には、それらのリンゴ樹が一本残らず伐り払われて、患者が耕作する野菜畑へと、変身したのであった。それは三井報恩会と東本願寺による援助によって買上げられたからである。

保養園慰籍会の物となったこの土地の周りには、社会(園外のこと)を私たちは、そう呼んでいた)と一線を隔するためのバラ鉄線が張られ、畑の真ん中には、何処からでも見えるように建てられた高い木製の塔には「三井報恩会畑」「東本願寺畑」と書かれていた。

この土地は園内に六室あった農園室に、それぞれ等分分け与えられ、キャベツや大根その他たくさんの野菜が作られ、その後おとずれてきた戦時下の食糧難に遭遇した患者たちの生命を、どれ程多く救ってくれたとか、園外からの野菜の供給などは全く無かった当時の状況からすれば自給自足をやりとげた、この野菜畑の果たした役割は、



## 松丘保養園

当時は北部保養院と称し、写真は恩賜館である。園内の写真は当時の院長中条資俊氏。この保養院の建築費用は(昭和10年1月完成)、米山梅吉が財団法人三井報恩会の理事長であった時の寄付によるものである。

たいへんなもので、それによって餓死する憂目にも遇わずに、救われた者の一人として、先ず私の胸を去来する思いが先立ってしまった。その為樋口先生から贈られた『米山梅吉翁と青森県』について言及するのが少し遅れたが、この本は、米山翁の手によって創設されたという、日本のロータリークラブの創立75年を記念して、青森市内の四つのRC合同委員会役員の方々によって編纂されたもので、ただ単に青森県に限ってだけでなく、米山翁の人となりまた翁の数限りない事蹟や、関係写真なども数多く収載されていて、記録的な面から云っても、すこぶる重要な価値のある記念誌となっている。

発行されたのは昭和55年で、ページ数も112頁というもののだが、この中には、われわれが忘れてならない、いや、もっと知らねばならないことが、ビッシリと書かれていることに、私は認識を新たにした次第である。戦前の巨大財閥である三井の財力を淨財たらしめ、存分に社会事業に振り向く、恵まれない当時の日本の弱者救済に奔走した偉人の足跡は、直接我々にも恩恵をもたらしたものだけに、無関心ではいられないし、その足跡に至っては、決して消し去ってはならないものである。

という思いに駆られて、この稿を起こしてみたのであるが、「相手が三井財閥だもの、お金が腐るほどあれば、そりゃー何だって出来るだろうよ」なんて冷めた目で見る人だっているかも知れないが、そんな次元の低い狭い了見では解釈してほしくない。日本のロータリークラブは1920年(大正9)

10月20日当時の三井銀行重役であった米山梅吉翁が、国際ロータリークラブから委任されて、東京に設立したのが始まりであり、それに続いて昭和9年3月、三井同族に呼び掛けて3000万円と云う巨費を集め、わが国の遅れている社会事業と文化事業の発展を促進援助する目的で三井報恩会をつくり、自ら理事長の職に就かれたのは、翁が67歳の時であったという。この三井報恩会が事業の一環として、当時疲弊困窮していた東北の一寒村西平内への援助、松丘保養園の設備充実のために、淨財を注ぎ続けられたのである。

と云うことは、この小冊子の「刊行のことば」から得た知識であるが、米山翁の博愛心は、肺結核の蔓延防止にも意をそそぎ、日本各地に結核の療養所を造ったほか全国的に街頭に屯ろして、物乞いをしながら命を繋いでいる、らい患者たちの悲惨な姿を目にして、いたく心を痛め、これらの人々を収容する療養所の拡幅を痛感した翁は、次ぎ次ぎと必要な土地を購入してはらい療養所に寄付されたのであった。

昭和13年11月東北の二番目のらい療養所として開設された宮城県の「東北新生園」の十万坪に近い広大な敷地は、三井報恩会が購入して、そっくり寄付されたもので、もし、それなくして新生園の誕生は、あるいは目の目を見ることなく、終わっていたかもしれない。そのほか各療養所に対する土地建物の寄付に至っては膨大を極め、その調査の手を持たない私などには、想像も出来ないほどのものである。

ところで本題の吾が松丘保養園との関係であるが、松丘では昭和3年、施設の大半全焼と同11年、官舎と保育所を残し全施設焼失につづいて同26年、医局と品物倉庫の全焼という火災に見舞われ、そのたびに復興再建のために、関係者たちが血のにじむような苦労を嘗めてきた苦い歴史があり、ほかに生活の手段を持たない患者たちは、何を為すすべもなく、援助の手を待っていた当時の惨状は目を蔽うばかりの悲惨なものであった。そんな中で昭和10年に、百名収容有料患者のためのしゃれた建物が三井報恩会より寄贈された。

その当時は、無償で入園を願ったとしても各県からの希望者が多すぎて、一年以上も待たされることが普通であったから、有料でも良いから早く入りたいという者のため、そういう施設が必要となったものと思われるが、数名の有料患者を収容したばかりで、そのほかは水害で壊滅した大阪の外島保養院の非難患者五十名を受け入れた矢先の翌年に起きた大火災で、惜しむらくは呆気もなく消失してしまったのである。

その火災によって職員官舎に一時避難していた患者たちを住まわせるための救護パラックが、青森市の成文組という建築請負師の昼夜兼行の突貫工事で一ヶ月という短い期間で完成をみたときは、誰しも安堵の胸を撫おろしたものであったが、その費用の大半も三井報恩会の寄付によって賄われたと聞いているが、着の身着のままで焼け出された人々にとって、それこそ地獄に仏に遭ったような気がしたに違いない。

私はその当時の関係する記録が見つかるかもしれないと思い、図書館から「甲田の裾」昭和13、4、5の三年間の合本を借りてきて調べてみたところ、昭和13年2月11日県会議事堂において三井報恩会より永年勤続職員に対する表彰式がおこなわれた。受賞者は、成田誠三、鈴木貫二、平井敏行、大久保巻之助、門前金之助(応召中)の五氏であった。また同13年5月8日には三井報恩会の宇田川貫次郎をお迎えしている。

つづいて、同日小林平左右衛門、横田忠郎の両氏を随えた米山翁自らが、東京からわざわざ松丘保養園を目的として来園されている。更に15年7月5日には、報恩会理事山口安憲氏が視察のためお見えになっている。

これらは何れも「甲田の裾」の巻頭写真によって確認することが出来たのであるが、宇田川氏の来園については日付は米山翁と同じ日となっているけれども、これは編集者の間違いで、実際には米山翁来園の打ち合わせのために、その前月に来ているものと思われる。なぜなら米山翁来園の記事は、6月号に載っているのに宇田川氏のは5月号であって当時の印刷事情からすれば、私の解釈が当たっているのではないかと思う。

米山翁を患者たちがお迎えしたのは、恩賜寮を建てるために地ならしをしていた広場であった。法被姿の消防団員や、ボイスクアウトの制服の小学校児童を交えた全入園者が勢ぞろいしていた前に、



中條園長の案内で現れた翁の表情はとてもにこやかで、最前列に並んでいた私たち児童にもやさしい眼差しを注がれていたことを遠い記憶のなかに思い出されるのであるが、この日の模様については、中條園長自らがパンをとられて「甲田の裾」誌上に発表されているので、重要な記録として此所にそっくりコピーさせて頂くことにする。(表紙参照)

#### この年は松丘保養園の敷

地拡張のために、三井報恩会が最も力をそがれた年であり、その理事長である翁がご自分の目で、現地を実際に見聞したかったのであろうが、私が初めて触れた農地のほかに、現在の野球グランドや官舎地帯の畠地も、そしてスキー小屋一帯の原野も、というふうに面積を増やしたい希望を、すべて叶えて下さったのであった。

今では、国の所有地へ繰り入れとなっているものもあるが、慰安会の土地として登記されているのは、一部東本願寺の寄付によるものほかは、米山梅吉翁という一人の偉大な篤志家の奔走によるものであったことを、私たちは改めて、記憶して置くべきものでなかろうか。

後年翁が、青森市を通過するとき時間の都合で、松丘に立ち寄れないのを残念に思いながら、車窓で詠まれたという歌がある。私たち松丘に生きる者への愛情が温かく込められていて、胸打たれるものがある。

#### 過ぎし年ここにしてわが時長く語らいたりよき日清く

私たちは今まで三井報恩会という名においてしか、その恩恵について考えようとはしなかったけれども、報恩会をつくり自らその理事長として、すべての才気を振るわれた米山梅吉翁という人物像については、「米山梅吉翁と青森県」を読むまで正直な処、全く何一つ弁えてはいなかった。それは私の不明を恥じるというより、翁がご自分の名が全面にでることを好まなかつたことによるからでもある。

既に50余年という歳月の間に、当時の事情を知る人が居なくなっている松丘関係では、今コピーで紹介した「甲田の裾」の中の中條俊資園長の文章にしても、ご援助頂いた事の詳細や、米山翁の印象にまでは深く触れてはいないため、まだまだ未調査の部分が多い。

米山梅吉翁が社会福祉、農漁村の振興、学術研究へ



患者農園作業風景

の助成や保健衛生等を、強力に推進するための財團をつくりうると思い始めたのは、アメリカに留学中に見聞して感銘を受けたことにあるという。

アメリカの財團は当然の如くに社会事業のために淨財を拠出し、ロータリアンも個々に社会のために奉仕する、これを日本の未熟な社会施策を補い、豊かな福祉社会を造りたいという希望を抱いて帰朝されてから、大正三年に「新隠居論」を発表し、「隠居した人は職務に忙しかった時に出来なかった事を、人間として社会に尽くす義務がある」と唱え、自分から率先して日本にロータリークラブを創設し、三井報恩会を造って、かねての理想とした奉仕活動に入ったと云われるが、らい患者の救済には特に力を注ぎ、政府に進言して三千床の増床計画を立てさせたのも翁の熱意によるものだという。

貧困者対策や病院増設など、今日なら国や自治体などが進めている諸施策を手広く報恩会が応援された中で、特に青森県と深い関係を感じさせるに至った根拠は、生涯を通じて家族ぐるみの親交のあった本田庸一、珍田捨巳、阿部義宗、 笹森順造など何れも弘前市の出身であったからと理解されている向きもあるが、全国津々浦々社会更正への夢をかけての生涯は、発展を続けるロータリークラブの活動ともなって、今や日本の良心的役割を果たしているが、翁は終戦直後の21年沼津の別荘で淋しく世を去られたという。七十七歳のご高齢とはいえ、まだまだ生きて戦後の復興ぶりをも見て戴きたかったと思う。

墓碑には「いさかいもなく漫々の青田かな」と辞世の句を刻ませたという。「もう戦争なんかしないでくれ、これからは青田に水を一杯張ったような幸せな世界になってくれ」と、夢を託しての死は、何と素晴らしい最後ではなかろうか。

# インタビュー

「ピーマンのつぶやき」を書かれた  
滝田さんにお話をうかがいました。



滝田さんと青森RCのメンバー

**Q** 「ピーマンのつぶやき」にもお書きになっていらっしゃいますが、三井報恩会畠があつたそうですが?

**A** 昭和13年3月、保養園に隣接していたリンゴ畠だった土地を、三井報恩会と東本願寺が買ってくれて畠にしました。畠の真ん中に4面板張りの塔が立っていて、そこに報恩会畠と書いてありました。園内で生活する人々は、その畠で作物を作り、自分たちの食物をまかないました。当時私は13歳でした。百姓の息子でしたから苦労も知っていました。

**Q** どんな作物を作っていましたか?

**A** 大根、ほうれん草、キャベツ、カブ、ニンジン、ゴボウ、白菜など色々作っていました。リンゴ畠だったので土が肥えていたのですね。獲れた野菜は漬け物にしたり、大根汁にしたりしました。配給がなくなつてから一年で60人くらいの人が亡くなりました。報恩会畠ができる前は厳しかつたですが、若い人が多かつたのでなんとかのりきりました。野菜のおかげで助かりました。

**Q** 昭和13年5月三井報恩会の一行が保養園を訪問したとき、実際にお出迎えしたそうですね?

**A** 昭和11年10月に園内で火事がおこり、総建坪の約85%が焼け、バラックだけになりました。その後、13年春に本建築が出来上がり、ここに米山さんたちが来たのです。子どもは30人くらいいたでしょうか。男子はボーイスカウトの制服、女子はセーラー服が用意されました。私たちはそれを着て、大人は法被など晴れ着を着て、外に出られる人は皆集合して列を作り、お迎えしました。某大臣が視察に来た時は、私たちは1時間前から待っていたのに、ようやく大臣が来たと思ったら小高い山の上から帽子を取つて挨拶ただけでした。米山さんたちは近くまで来て、私たちの代表がお礼の挨拶をしました。

**Q** 当時、滝田さんと一緒に報恩会をお迎えした方は他にもご健在ですか?

**A** 私より先に入所していた女性が5人くらい居りますが、みなさん100歳近い高齢になっています。

**Q** 他の療養所の方々との交流はありましたか?

**A** 機関誌などを通じて、また文通などもしていました。旅行で長島愛生園にも立ち寄りました。長島愛生園は、報恩会が3000床ベッドを増やしたり、それまで雑居生活をしていた夫婦が、初めて一緒に生活できる公舎も作ったそうです。このような報恩会の貢献された記録、書簡などが全国の療養所に残っているのではないかでしょうか。ぜひ、この記録を残してほしい。私は、若い頃は胃腸が悪くて苦しましたが、ここまで生かしてもらったことを感謝しています。米山梅吉翁がいなかつた日本の救らい事業は進まなかつたでしょう。私が成長する時代に土地を与えられのびのび生活できたのは、報恩会のお陰だと思っています。

青森ロータリークラブは、水道水源地に木を植える活動を行ってきました。活動から20年が経ち、この活動が満了し新しい活動を探していたところ、三井報恩会の事業に出会います。三井報恩会は、青森において、平内町に農村振興の援助や、ハンセン病の療養所である松丘保養園への援助も行っていました。小泉首相の時代に、国はハンセン病政策の誤りを認め、各施設も閉鎖から開放へと転換していきます。そこで青森RCは、保養園の敷地に桜を植える活動を始めました。そんな中、この活動を通じて知り合った樹木医さんに滝田さんのことを聞きます。

このたび、青森RCの活動を通じて、報恩会が援助していた当時を知る貴重な証人として、滝田さんにお話を伺うことができました。青森RCは、滝田さんの「ピーマンのつぶやき」を録音し、より多くの人に聞いてもらうことにより保養園の歴史を記録したり、ロータリークラブ会員や米山奨学生、ローターアクト、地域住民、保育園児、そして保養園の方々と力を合わせて保養園の敷地内の花壇づくりや草取りなどを通して、保養園と地域との交流を行っています。

# 松方幸次郎と美術館

## 松方 七郎(東京銀座RC)

国立西洋美術館が世界遺産として登録されることになった。トルコのクーデターの影響で審議が一日遅れたが、2016年7月17日(日)のイスタンブールで開かれたユネスコ世界遺産委員会での決定である。仏人建築家ル・コルビュジエの近代建築運動への貢献が新しい建築概念を広め、顕著な普遍的価値があると評価されたことだ。時宜を得、的を射る判断と、建築業に携わった者として喜ばしく思っている。

この国立西洋美術館は仏政府から日本政府に「寄贈返還」された松方コレクションを保存・公開するために設立されたものである。第二次世界大戦の最中、幸次郎の代理人であった日置錠次郎はパリにあった絵画400点をトラック3台に乗せパリから郊外の小村アバンドンに運んでいる。ナチスの侵攻を避けるためである。戦後これらの絵画はサンフランシスコ対日講和条約により敵性財産として仏政府に接収される。1951(昭和26年)9月の条約調印時、日本全権吉田茂首相は仏国全権シューマン外相に対し「松方コレクションの日本への返還方」を依頼する。個人財産は接収の対象外と思われる。その場で「善処する」旨返答を得る。

これから7年間の長い日仏政府間協議が続く。外交交渉におけるフランス側の主張は①日本国民に寄贈される事。(松方個人ではなく)②日本国は西洋美術館を新設する事。③同建築の設計は仏人建築家ル・コルビュジエとする事。という3条件であった。設計コンペでもなく、国際コンペでもなく設計者の指名がフランス側の条件であった。今回の世界遺産への道筋はこの時、始まっている。

日本側は②、③は了解したが①の寄贈と言う言葉に反論。「寄贈でなく返還である」と主張。最後まで、寄贈、返還論争は折り合いがつかず、日本側は最終的に新しい造語「寄贈返還」という言葉を編み出し公式文書を作成了解した。

仏側事務方はおおむね了解したにも拘らず、議会が反発、返還は暗礁に乗り上げてしまう。元レジスタンスのメンバーから返還反対運動が起きたのだ。曰く「芸術は作られた環境においてはじめて価値が評価される。」また議論が沸騰してしまう。

これに対し元マキ(仏東部・中部山岳地帯中心のレジスタンスの地下組織)の有力者、ヴァディム・エリセーエフが



ジベルニーのモネ邸の庭園でモネと談笑する松方幸次郎(1921年)

メンバーを説得して回り事なきを得た。1958(昭和33年)ドゴール大統領の行政命令により最終的に寄贈が許可された。エリセーエフの父親はロシアの商家の出身、東京帝大の特待卒業生で西洋人第一号になった人である。ロシア革命でフランスに亡命し市民権を得、ソルボンヌ大学の教授となる。その後ハーバード大学で日本学の創設者となつた。(以上「絹と武士」春ライシャワー)絵画400点の中、数点が仏政府により保管費用の捻出のため売却。

更に、仏側は文化委員会の門外不出指導から仏人画家作品19点を国内に留め置いた。オルセー美術館11点・ルーブル美術館4点・ポンピドゥ・センター美術館4点である。この中にはゴッホの「アルルの寝台」も含まれている。(以上「芸術新潮」矢代幸雄)この結果、実際に日本へ寄贈返還されたのは371点となつた。

1959(昭和34年)4月横浜港中央桟橋に美術作品が到着。6月国立西洋美術館開館。幸次郎は1950(昭和25年)にすでに亡くなつており、死後9年後の事である。幸次郎の「共楽美術館」構想は1917年頃であるから、ゆうに40年が経っている。ユネスコの審議は、絵画群の長い命運を考えれば真にふさわしく、驚くには値しない。

国立西洋美術館は世界遺産登録人気で通常の2倍の入場者が来られていると、馬渕明子館長から伺つた。幸次郎は西洋の芸術・文化をすべて日本に持ち帰り、本物を見せてることで日本人の目を開かせる事を目論んでいた。膨大な名画を集めながら一点も我が家に飾ろうとしなかつたところにその志の高さが伺える。

松方幸次郎が52歳の頃、ロンドンやパリの画廊と共にめぐっていた美術評論家矢代幸雄氏(当時32歳)は『松方さんは日本の美術界のために本当に良いことをしてくれた。コレクションの松方さんとして永久に記憶され感謝されるであろう。人のために集めたはずの美術によって、自ら最も幸福を受けた人と言い得るであろう。』(芸術新潮)

前号で『松方幸次郎のRC生活は1年半』と指摘したが、RCの奉仕の精神を正しく理解していたと思われる。



米山梅吉記念館の月桂樹  
 (ポール・ハリスお手植え一世)から  
 三世の苗木を、育てています。



温室の中で元気に育っている月桂樹。

インタビュー

ポール・ハリスが来日したのは昭和10年2月9日です。

後の回想録のなかでポール・ハリスは、帝国ホテルでの月桂樹の記念植樹が非常に印象深い儀式であったと記されていますが、その慌ただしい日程の中での月桂樹植樹は強く印象に残ったようです。

このポール・ハリスお手植えの月桂樹は、戦禍のなかを生き延びました。しかし樹も老いを加え、さらには昭和42年に帝国ホテルが建て替えを計画し、この木を取り除かれる手はずでした。そこで東京ロータリークラブの矢野一郎氏は、この木から挿し木を取って、慈しみ育て、8本が根をつけました。親木は病虫害で弱り、植え替えには耐えることができませんでした。

矢野氏が育んだ帝国ホテルからの月桂樹2世は、米山梅吉記念館などに植えられました。42年前に米山記念館に植えられた月桂樹2世は、今も旧館庭園にあります。樹勢の衰えが目立っています。

今回米山梅吉記念館の月桂樹2世の傍らに植樹された苗木は、この2世からの挿し木で成育した苗木で、いわば3世ということになります。この3世の育苗には三島ロータリークラブの会員によるご努力と、卓越した技術がありました。気遣いと長年のご努力の結果、挿し木30本中27本が活着し、これまでにお分けしてきましたが、現在10本を養生しています。

## 月桂樹3世を育てた久保田伸治さん(三島RC)に聞く

□この月桂樹の育苗に取組んだ経緯をお聞かせください。

**久保田:**今から5、6年前に記念館の月桂樹の樹勢が衰え、何年もの猛暑で樹皮が枯れて傷み、葉も弱ってスス病が蔓延している状態でした。痛々しい樹姿に渡邊脩助記念館理事長が心を痛め、樹勢の回復を願うと共に、後継策もお考えになりました。同じ頃、三島RCでは市内の三嶋大社境内の指定天然記念物の大金木犀の後継苗を育成していましたので、月桂樹も育成したらどうかと相談されました。

□取組みを始めて、どのようなご苦労がありましたか?

**久保田:**取り組みの初年度は、全滅の憂き目にあいました。夏の猛暑が災いしたのですが、苗床が高温で煮えてしまつたようになり、それまでの努力が水泡に帰し空しさと悔しさがありました。でも反省もありました。

□どのように改良されたのでしょうか?

**久保田:**自分自身が心を新たにするために、豊橋技術科学大学のイノベーション講座で学ぶことにしました。新幹線で半年通学しました。最先端植物工場科目への第一歩目でしたが、学ぶと同時に職場に小さな苗場温室を作りました。小さいながらも各種器具一式を取りそろえ、環境制御ができるようにして、温度・湿度・日光量の調整をはじめ、CO<sub>2</sub>の加減も可能になりました。

□学びと努力が実ったということですね。

**久保田:**はい、そのお陰で当時も今もとてもよい成績で、金木犀も月桂樹も育成できるようになりました。今回月桂樹は30本挿してみましたが27本の活着をみました。

□今回全国の地区やクラブに記念館が呼びかけて月桂樹苗木をお分けしますが、感想をお聞かせください。

**久保田:**苦労して育て上げた苗木が、全国のロータリアンの手で植えられ成長していくことは望外の喜びです。いろいろなところに植えられたポール・ハリスお手植え月桂樹3世が樹勢旺盛に繁っていることを想像するととても嬉しくなります。幸い本年度は三島RCの創立60周年記念の年ですので、これも記念事業の一つとして皆さまにご記憶いただけると幸いだと思っています。

# 米山梅吉記念館 秋季例祭

お知らせ

多くの皆様のご来館をお待ち申し上げております。

[日時] 平成28年9月24日(土)午後2時～

[場所] 米山梅吉記念館ホール

## ●講演

[講師] あわや のぶこ氏

中伊豆の庄屋、菅沼家の「知半庵」(国の有形文化財)の奥座敷で生まれる。RI獎学生として南メソジスト大学芸術学部に留学。

ジャーナリストとして活躍し、異文化コミュニケーションを専門としている。



## [演題]

ロータリー留学という原点と私の現在  
—伊豆の国際的な文化再生を願って—

## ●懇親会

[登録料無料]

ご一緒に楽しい語らいの時を過ごしましょう。

## ●アトラクション

太神楽かがみもち ~あなたの心を鏡開き!~

丸一仙三 やまなし大使(山梨県)

●2001年 太神楽研修修了 鏡味千三郎に入門

●2002年 前座修行終了 仙三郎社中として活動

●2010年 妹弟子の丸一仙花と結婚 かがみもち結成

[受賞歴] ●2005年国立演芸場花形演芸大賞「銀賞」受賞

●2006年国立演芸場花形演芸大賞「金賞」受賞

[出演歴] 火曜時代劇「夜桜お染」(フジテレビ)

初笑い東西寄席(NHK総合)など多数出演

[イベント] 文化庁国際芸術交流支援事業「太神楽曲芸協会海外公演~

(タイ、カンボジア、ラオス)

外務省国際交流基金~伝承される江戸の技芸~(韓国)など。

ポール・ハリスお手植え月桂樹3世  
ご希望地区・クラブに  
差し上げます。(10本限定)

地区やクラブでの植樹奉仕などの記念に植えてください。  
応募多数の場合は抽選になります。



由緒ある記念樹ですので、個人的にはお分けできませんが、地区、分区、クラブ、グループとして、記念事業や記念植樹などの奉仕活動にお役立ていただけるものと思います。  
ご希望の節には、下記によりお申込み下さい。

地区番号、クラブ名、会長名、責任者名、連絡先、苗木送付先、  
奉仕活動の概要などお書きのうえ、  
FAX(055-973-9066)にてお申し込みください。

お問い合わせ・お申し込み窓口

■久保田伸治(三島ロータリークラブ)宛

■FAX055-973-9066 TEL090-7867-1888

■締切日 平成28年11月30日(水曜日)必着

■ご希望クラブ多数の場合は、抽選とさせていただきます。

■1地区・クラブにつき1本とさせていただきます。

■送料は[着払い]でお送りいたしますので、実費をご負担ください。

米山梅吉記念館のご案内

新幹線三島駅よりタクシー5分

東名沼津ICより15分

【開館時間】午前10時～午後4時

【休館日】 ●月曜日

●12月28日～1月4日

●整理のための休館日(5月・8月の特定日)

米山梅吉記念館 館報

Vol.28 秋号

発行日／平成28年8月20日

発行者／公益財団法人 米山梅吉記念館 理事長 渡邊 脩助

〒411-0941静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1 TEL(055)986-2946 FAX(055)989-5101

URL <http://yoneyama-umekeichi.jp/> E-mail [yumh@ai.tnc.ne.jp](mailto:yumh@ai.tnc.ne.jp)